

COLUMN: 先生紹介 ▶ Luigi Andrew Ilustre (Talking Kids)



experiences that made a big impact to who I am right now. My name is Luigi Andrew Ilustre, a born Filipino.

In 2010, I graduated with the degree of Bachelor of Science in Nursing, after the graduation I had the opportunity to be a part of the biggest sales and marketing company in the Philippines. I engaged myself into different training and seminars where I was able to gain my knowledge and experience in leadership. I also had the chance to stand in front of hundreds of people as a guest speaker. While working I acquired my professional license in Nursing. After 5 years I decided to take another path. I became a member of a youth organization called International Youth Fellowship. I served as a volunteer here in Japan, working with different people, age, and culture exposed me to different levels of understanding and

時間が経つのは早いものです。「日出づる国」に足を踏み入れてから7年になります。自分に大きな影響を与えた今までの経験を振り返って自己紹介をさせていただきます。フィリピン生まれのルイージ・アンドリュウ・イルストと申します。

2010年に看護学の理学士号を取得した後、フィリピン最大のマーケティング会社に就職しました。そこでさまざまな訓練やセミナーに参加したおかげで、リーダーシップに関する知識と経験を得ることができました。何百人もの人の前でスピーチをする機会もありました。そして働きながら、看護師の免許も取得しました。それから5年後、私は別の道を選ぶことにしました。IYF (NPO 法人国際青少年連合) という青年団体のメンバーになりました。そして、日本でボランティアとして働き、さまざまな年代の人々やいろいろな文化に触れ、たくさんの経験や知識を得ることができました。さらにフィリピンと日本の両方で、国際マインド教育研究所の講師を務めました。そこでは、他国の人々に英語を教えたり、リーダーシップトレーニングを通して、若者に自信を持たせ、逆境を乗り越えられるような強い心を育てる活

Time flies so fast.

wisdom through the years. Furthermore, I became a lecturer at the International Mind Education Institute both in the Philippines and Japan. We are organizing different programs such as teaching English to other nationalities, empower people through our series of leadership training, help them overcome adversities by having strong minds, in addition we also design several activities to boost the confidence of the youth. Furthermore, I'm the head coordinator of the IYF organization here in Osaka. As a leader, I was able to learn how to handle people and motivate them to maximize their potential as an individual.

At present, I am so blessed to be part of Kaichi Sougo Gakuin, our growing company with a clear mission and vision which is to provide quality education.

I had been observing classes since September. I had the chance to see the student's willingness to learn and study after school despite their busy schedule. Even if they look tired sometimes, I am happy to see smiles on their faces as they enjoyed different activities prepared by the teachers.

I understand that there are so many factors affecting a student's learning process,

動もしていました。さらに、ここ大阪でIYFの主任コーディネーターもしています。リーダーとして、人への接し方や個人の可能性の引き出し方などを学びました。

そして今、質の高い教育をお届けするため、しっかりとしたミッションとビジョンを持っている開智総合学院の新たな一員になれたことに感謝しています。

9月からの授業見学で、忙しいスケジュールの中頑張って学習している生徒達を見ることができました。時折疲れが見えても、講師たちが準備したさまざまなアクティビティを笑顔で楽しむ姿がとても印象的でした。

学習過程において影響を与える要因はたくさんありますが、促進薬として、生徒のやる気を引き出し、それを伸ばすことが私達の責任であると思っています。私達は常に全力で臨みますので、みなさんは最高の環境で学習していることをどうか忘れないでください。

英語を使うことに自信が持てるように、そして世界でも活躍できるように私達がお手伝いします。

however, as facilitators of learning it is our responsibility to motivate and cultivate our students to help them to develop their knowledge and skills. We should always remember that having the right attitude and believing that you are in one of the best institutes will provide positive results.

Let us help our students develop confidence in using the English language. Let us prepare them to become globally competitive so that they will become ready to face all the opportunities and challenges ahead of them.

As the newest teacher, I am so excited to impart all the learnings that I have for the student's educational growth. I will prepare various lessons and activities that are both fun and enjoyable for the students.

Remember that the only limit that you have is the limit that you are putting to yourself. There will be tough times as we push forward but these times are essential for you to become a better version of yourself. I can attest to you that you are already doing great because extraordinary people are people doing extra things compared to ordinary people doing nothing aside from the usual.

ここカイチで新任講師として、みなさんに指導していくことをとても楽しみにしています。楽しいレッスンやアクティビティをいろいろ考えています。

どうか自分の限界を自分で決めないでください。今、前進するのは難しい時期ですが、この経験もさらなる飛躍には役立つことでしょう。そしてみなさんはすでに英語の学習を始めているので、英語が上達していることに間違いありません。

ルイージ・アンドリュウ・イルストレ (トーキングキッズ)



Growing

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

October 2020
Vol. 97
毎月10日発行

【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)



▲20年前の教室の様子。
教室の内装は変わらないけど、すごい昭和感。

20年前の卒業生が 思い出させてくれたこと

10月に入り、9月の暑さが嘘のようにすっかり涼しくなりました。ここからは風邪がはやる季節です。今年は、ニュースで何でも言われているようにコロナとインフルエンザが同時に流行する可能性がある特殊な状況です。咳が少し出る、のどが痛い程度でも例年以上に注意が必要になると思います。とにかく手洗い、うがい、そして寝冷えしないよう暖かくして眠るように心がけましょう。特に受験生の皆さんは、受験校の決定を左右する重要なテストが目白押しです。無理せざるを得ない場面もあると思いますが、体調を崩し休んでしまうことが焦りの原因になります。体調面をしっかり意識して、大切な今を乗り切るようにお願いします。

先月、20年前の教え子の栗林君、というかもう33歳の立派な大人ですので栗林さんが来てくれました。彼は古市教室の小学部の生徒で(当時は古市教室で小学部だけ学習塾をしていました)その後、今福の学習部に来て市岡高校に進学した生徒です。

彼の今の仕事のことや、カイチがどのように変わってきたなど30分ぐらい話して「それじゃあ」と話を切り上げようとした所で「実は兄先生のお仏壇に手を合わせたて。」と訪問の目的を教えてくださいました。

塾生の皆さんはもちろん、職員の先生でも、私の教え子だったマノロ先生を除いて、兄先生のことを知っている人はいないと思います。兄先生とは、私の兄だから兄先生。そして私は弟ということと元来younger brotherなのですが、当時の生徒がjunior brotherと間違えてそれ以来「ジュニア先生」と呼ばれています。



▲物思いにふけている兄先生と若かりし日の私

やがて、私達2人に元気いっぱい妹の栄美子先生が加わり、毎日生徒たちの成績を伸ばすアイデアを話し合っていました。その中で考え出したのが、今も使っている診断テストや作問カード、質問カード、そし



▲20年前の今福教室
あまり変化なし?!

朝、お姉さんからの電話で飛んで行くと、兄先生は大いびきをかいて昏睡状態になっていました。クモ膜下出血です。

兄先生を病院まで見送り動揺したまま教室に行くと、下津さんという熱心な受験生が質問に来ていました。今でもよく覚えています。兄先生が担当していた数学の三平方の定理の証明問題です。その日は、どうしても質問に答える気分になれず、下津さんには「今は忙しいから。」と言って帰ってもらいました。

すると、その夜、下津さんが勉強をしていると部屋の白い壁の中から誰かがじっと見つめているのだそうです。下津さんはお母さんと呼んで壁を指さし、「今も眼鏡をかけた人がじっとこっちを見ているのに、なぜお母さんには見えないの?」と話したそうです。

そう、兄先生は眼鏡をかけていました。情けない弟が大切な生徒の質問に答えずに帰したので、心配で家まで付いて行ったのでしょうか。彼はまさにそのような人でしたから。

てスケジュールシートなどです。3人とも毎日毎日働き詰め、時に喧嘩をしながらも、とても充実した時間でした。

そうして、少しずつ子供達の成績が伸び、評判を聞いて生徒達が来てくれるようになった矢先に、兄先生は亡くなりました。ちょうど18年前の秋です。

兄先生を病院まで見送り動揺したまま教室に行くと、下津さんという熱心な受験生が質問に来ていました。今でもよく覚えています。兄先生が担当していた数学の三平方の定理の証明問題です。その日は、どうしても質問に答える気分になれず、下津さんには「今は忙しいから。」と言って帰ってもらいました。

すると、その夜、下津さんが勉強をしていると部屋の白い壁の中から誰かがじっと見つめているのだそうです。下津さんはお母さんと呼んで壁を指さし、「今も眼鏡をかけた人がじっとこっちを見ているのに、なぜお母さんには見えないの?」と話したそうです。

兄先生のお通夜は500人以上の方が来られ、江戸時代からあるそのお寺始まって以来の人数だったそうです。そして、その大半が卒業生や既塾生とその保護者の方でした。また、周りの小中学校からも千羽鶴やお手紙を多数いただきました。

地元密着の小さな塾のしかもまだ30歳の若者の死にこれだけの人が集まり、別れを偲んでくださる。僕らの仕事は小さいけど、意義がある大切なことをしているのだなと強く感じたことを覚えています。

その年の受験日の朝には、塾の前で手を合わせる生徒の姿があったとご近所の方から教えていただきました。

あれから、18年。

栗林君のやさしさが、私にも大切なあの時の気持ちを思い出させてくれました。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



知的好奇心を満たせる 教室を目指して

伊藤 喜章 (万緑会)

万緑会の万緑とは中村草田男の「万緑の中や吾子の歯生え初むる」に由来し、この句は子供の成長を草木の生い茂る緑として感慨に耽ることを詠んだ句です。そんな子供の成長を共に歩み、見守っていくことを根幹とした小学受験及び幼児教育専門の教室です。

前任の恭子先生から教室長を引き継ぎ早いもので3年になります。生徒数も着実に増え、就任当初より約2倍になり教室も賑わってきました。

万緑会には小学受験クラスと能力開発クラスの2つがあります。

まず、小学受験クラスは、大手で幼児部門から立ち上げた経験を持つ、指導歴約30年の山内先生が教えてくださいます。年少から年長まで、少人数制のクラスで、毎年多くの小学校に合格者を輩出されています。まだ字も書けない幼児に「トマト」や「ツバキ」など言葉を教え、共通の字やしりとりをしていく。さらに「季節はいつか。」「それは土の上に見えるか、それとも中にあるか。」「水に浮かすと、浮かか沈むか。」など多くの知識を生徒自ら答えるようになります。

ある程度年齢が進んだ皆さんの中には、そんな問題は簡単だと思われるかもしれませんが、実際に教えてみて感じることで、3歳からの幼児が言葉を理解し、「七五三は11月にあります。季節は秋です。」と答えるようになるのはなかなか難しいことなのです。

それを山内先生はいとも簡単に生徒に理解させます。



▲山内先生の小学受験クラスの様子。みんな本当に真剣!

決して知識を叩き込むのではなく、生徒の心に寄り添い、時に座れず、落ち着かない子にも優しく諭し、自ら喜んで答えるように指導されます。その子に足りないところがあれば、プリントを補充し、自ら行きたい学校の対策を兼ねてその都度授業で演習を行ってくださいます。子供の記憶がまだまだ定着しない中で、通ってくれている生徒一人一人のため、何時間も費やし、授業を準備し、プリントを作成し、演習や宿題に自ら取り組むよう促して

いかれます。

「昨日できなかったものが今日できる!」そのような喜びの積み重ねで生徒が積極的に答えるようになっていきます。山内先生は細部まで気を配り、生徒の合格を一生懸命サポートしてください。

親御さんでも「こういう場合はどうしたらいいのか。」という問いにも毅然として「これはダメ、ここはこういう風にしてください。」と的確にアドバイスされます。保護者の信頼も厚く、小学受験の満足度は非常に高いです。

このような小学受験のクオリティが生徒のやる気に繋がりと、親御さんや教室の雰囲気明るくしているのだと痛感しております。

一方、私の担当している能力開発クラスですが、7月末から8月にかけて夏期講習を行いました。

中でも夏期講習中に1冊読み切ると「ガラスのうさぎ」を学年ごとに読んでもらいました。戦後75年を迎え、風化されつつある戦争を物語として読んで感じてもらいました。なかなか難解な読み物でしたが、本文を理解しているか確認した後、「あなたは戦争に召集されたらどうしますか。」と質問を投げかけました。すると、「ぼくは、お父さんとお母さんと離れるから行きたくない。」とか「戦争は悪いことだし、人が殺されるから行きたくない。」とか「地域のみんなや家族のために、召集された以上は行かないといけなと思う。」とか様々な意見がでました。



▲夏の課題図書は「ガラスのうさぎ」学年によって小説と挿絵の多いもの2種類用意しました。

戦争に興味を持ってもらうために戦争についての資料の掲示も行いました。▶

教育改革がなされ、一部計画が見直されている昨今ですが、大きな入試傾向として、知識を単に吐き出すのではなく、物事を理解した上で、「あなたはどのように思いますか。」という問題に理由をつけて論理的に答えるよう、各大学・高校・中学・小学入試でさまざまな試みがされています。

万緑会が目指すところはまさにそこにあります。

自分で得た知識を試行錯誤し、難問に果敢に挑んで一貫した答えをだしていく。戦争という今では考えられない状況の中、過去を想像し、人々の無念さを思いやり、自分が生きていたらどうするかを彼らなりに必死に考えて理由をつけて考えを述べる。子供達にとって読書を通じていい経験ができたのではと思っています。

保護者の方々にもこの本の難易度もさることながら、戦争という重いテーマを通して子供たちが様々なことを感じ、自分はこう思うとはっきり整然として意見を述べる姿に「良かった。」と異口同音に仰っていただきました。

また最後のゲームでは百人一首を読んでもらい、カルタ大会をしました。



▲授業後の百人一首の様子

中学入試や高校入試でも出てくる古典に少しでも馴染んでもらうため、数は少なくしましたが、子供達は1枚でも多くカルタをとるため、必死に楽しんでやってくれました。

上の句、下の句を覚える子どもでできて最初の「あしびきの～」というだけで年始の百人一首大会よろしく、スバッと取る子もいれば、下の句の札を見ながら反射神経だけで取る子もいて、子供の性格が出るものだなあと感じました。

中でも圧巻だったのは、まだ年中にもかかわらず、4歳の女の子が古典の文字に慣れ親しみ、あれよあれよという間に、たくさん枚数を取っていたことです。最初の読書で重くなった雰囲気がかつて和気あいあいとカルタを取ることで晴れていくようにしました。

普段の授業ではできないことが夏期講習ではできたのかもしれませんが。

このように、知的好奇心を満たす取り組みが出来つつあることも教室が活気づいている証左かも知れません。万緑会という教室の在り方にさらに磨きをかけ、生徒達の成長を通じてさらに大きな教室にしていきたいと思えます。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



生徒保護者必見! 受験生がやってはいけない5つの行動

高木 直也 (諸口教室)

早いもので2020年も秋から冬に差し掛かり、中学校3年生はいよいよ受験本番といったところではないでしょうか。これまで開智の先生達は長年にわたりたくさん生徒達を送り出してきました。

その中で、合格し喜びに満ち溢れた生徒、あと一歩及ばず涙した生徒。たくさん生徒の受験結果を見届けてきました。その中で、たくさんの合格の秘訣を学んできたわけですが、合格の秘訣というのは何もすべてが「～すること」といったものではありません。過去の失敗から「～をさせないこと」というのも合格の秘訣にあたります。今回は、「志望校合格のためにやってはいけない5つの行動」をご紹介します。

1 睡眠時間を削って勉強すること

1日にとるべき睡眠時間は7～8時間以上といわれています。私は毎度生徒達には23:30までには必ず寝るように話しています。勉強したい気持ちはわかりますが、睡眠不足になると、日中の集中力が下がり、学校、塾でのパフォーマンスが下がります。集中力が落ちるのでケアレスミスが増え、答案も精細を欠いたものになってしまいます。成績は当然下がってきますので、もっと勉強しなくちゃ、そしてさらに睡眠時間を削る。この悪循環に陥ってしまうと志望校合格はおろか、受験すら危うくなるでしょう。また、睡眠不足はほとんど人を情緒不安定にしていきます。ただでさえ、受験のストレス、プレッシャーにまみれた生活です。いかにこれらと半年付き合っていくか。十分な睡眠は受験には不可欠です。気持ちが乗ら



ない、勉強に集中できない生徒はまず睡眠を見直してみましょう。

2 長い時間廊下に滞在すること

大して用もないのに、自習中、居残り時間に廊下や玄関まわりでうろうろすることはありませんか。

人が一人しか入れないトイレに連れ立っていくことはありませんか?トイレ前にたむろしてたら時間をつぶしていませんか。こういう過ごし方をしている生徒で成績を上げている生徒を見たことがありません。居残り時間、居残りしている友達を待つなら一緒に勉強する。一緒に勉強しないなら先にさっさと帰る。基本中の基本ですが、今一度自分の自習中の行動、居残り時間での自分の行動を見直してみましょう。

3 めんどくさがって親と会話しないこと

冬に差し掛かってくると、気持ちもナーバスになりお父さんお母さんと会話ができなくなる生徒がいます。親と会話ができなくなっているときは精神的余裕を失っている時です。受験前でも親と会話ができるだけの心のゆとりを持っておかないと本番で緊張して自分の力を発揮することはできません。受験直前まで良好な親子関係を築けている生徒は本番で落ち着いて結果を残していることがほとんどです。学校であったこと、ふと思ったことなんでも結構ですので一日のどこかでお父さんお母さんと会話する時間を持つようにしましょう。

4 たくさんの教材に手を出しすぎることに

学校と塾で十分な量の教材が与えられているにもかかわらず市販のものに手を出したらただ問題解くだけのよう勉強になっていませんか。まずは学校、塾で与えられた教材を徹底的にやり切ること。問題を解いたら教科書を開けて徹底復習をしましょう。

5 学校の進路指導を鵜呑みにすること。

これからの学校の進路指導では自分の志望校よりも2ランク3ランク下を提示されることもあります。

でもちょっと待ってください。本当にそのレベルにしか進学できないのでしょうか。カイチの先生達は学校の実力テストの結果はもちろん、五ツ木模試、進研模試、公立高校合格判定模試など学校よりも多くの資料に加え、これまでの指導経験を乗せてアドバイスをしていきます。学校の面談で気になる事、特にネガティブなことを言われて気落ちしたときには必ずカイチの先生たちに相談をしてください。

受験前は学習内容にばかり気を取られ、生活が不規則になりがちです。一見何も受験には関係ないようには見えるかもしれませんが、学力を磨くには心と体が健康な状態であることが必要です。

ちょっと調子が上がらないなという皆さんはもう一度この5つを見直してみたいかがでしょうか。



岡本の
ちょっと

イイ話

TEACHER'S VOICE

岡本 泰行 (高殿・今福教室)



「本と子供と私」

どこかで聞いたことがある曲名のようなタイトルですね。なかなか外出をしにくい日々が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。旅行好きな私にとっては旅に出たくて、うずうずしております。

外出しにくい環境なので、家で本を読む機会が多くあります。やはり、旅行のガイドブックをよく見てしまいます。数あるガイドブックの中でまずは表紙のインパクトのあるものを選びます。

私は魚が大好きなので静岡をチョイス。



中を開けてみると



こんな写真があります。ものすごくそられます!!ということで、これを食べるためにはどこに行けばよいのかと探します。そこで地図です。



地図を見ていると都市と都市の位置関係が分かったり、縮尺を見れば、どれくらい離れていたたりするのがわかります。また、旅行のガイドブックに付いている地図のいいところは、名所旧跡や、観光スポットなどが太字で目立つように書かれているということです。

この地図では、焼津市を調べるついでに、お茶で有名な牧之原や、歴史で出てくる登呂遺跡なども見つけることができます。ガイドブックなので、写真もついているので、実際行ってないですが、頭の中でエア旅行をしています。(実際はタイムスケジュールも組みながら綿密に計画を立てています。1泊2日なら、どこで宿泊すればいるいるなところを効率よく回れるかなども考えて)こんなことをしていると1・2時間くらいあつという間に過ぎてしまいます。

ということをしていると、私の子供が、本を持ってよく近づいてきます。

まだよちよち歩きの子ですが、一緒に本を読むとうれしそうにページをめくっていきます。子供と一緒に読む本は私が小さかった頃にもあった本がほとんどです。自分の頭にインプットされているのか本の内容は覚えているものですね(あたり前ですかね?)。やはり“いい”とされるものはずっと残るものですね。30年以上たっても私の頃の本がたくさんあるのが驚きでした。

今でこそ、ビジネス書や、小説など通勤時に本は読んでいますが、学生時代は本を読むのがほんとにーうに苦手でした。家で本を読んで楽しそうに旅行の計画立ててる姿を見て子供に本に興味を持ってもらえないかなと思っております。子供には本が好きになってもらいたいです。



意外とこんなところのためになる情報が!
焼津は遠洋漁業の基地として有名